

意識が変わる 新人研修

自律した人間を育てる

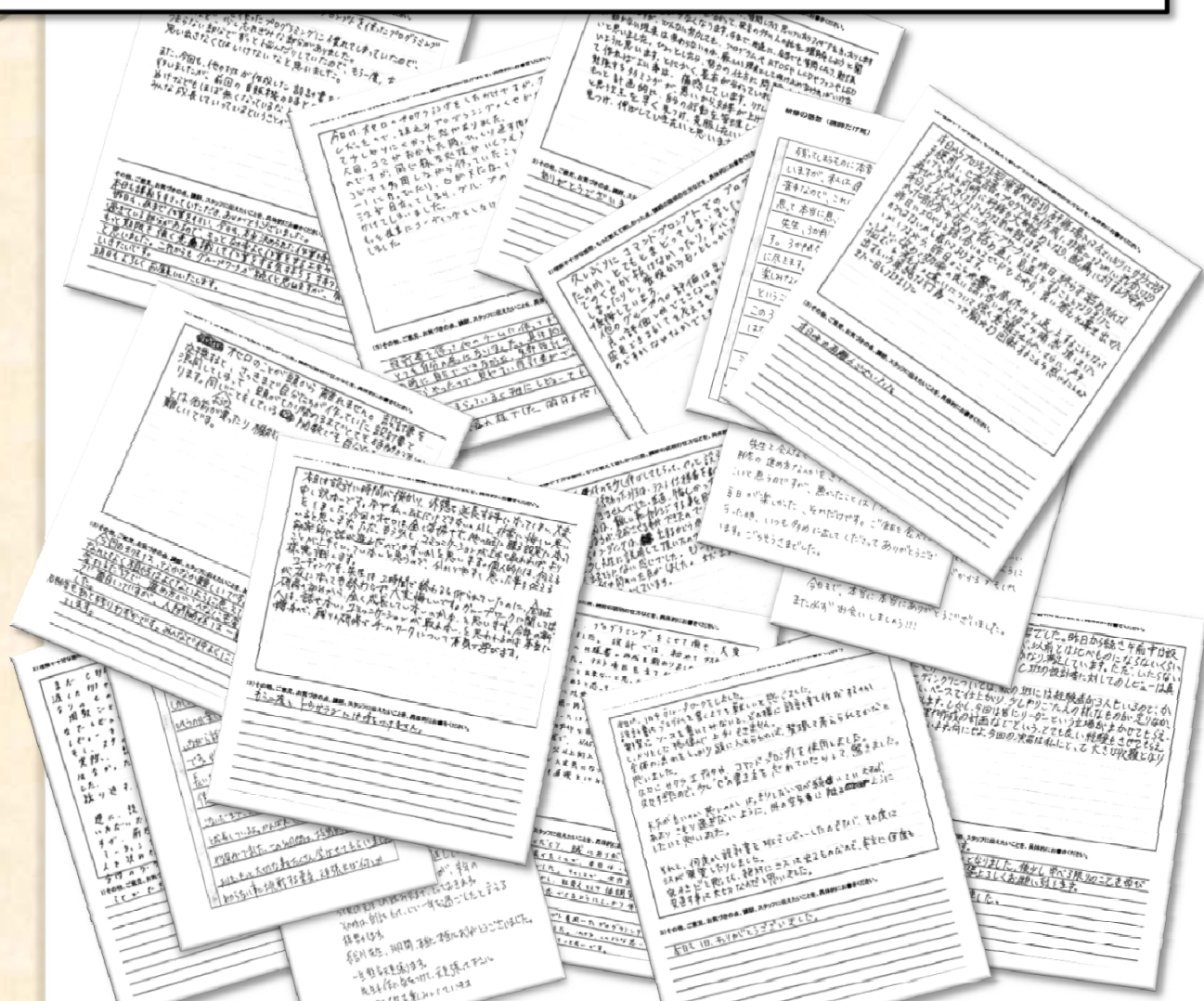
考える力、学ぶ力を身につける



有限会社テクノセンス

受講者の声

これは、当社による新人講習を受講された方による日々の感想や、講師宛の手紙の一部です。



日々の感想、講師宛の手紙にこれほどぎっしり書かれていることから、どれほど密度の高い、実効性のある、気づきにあふれた講習かをご想像いただけることでしょう。

人を育てる

- 考える力を持った人間を
 - 当社は人材育成のためのコーチングスキルを多くの人に伝え、またコーチングスキルにより「考える人間」を育てることを最大のテーマとして活動しています。
- 積極的に学ぶ姿勢を作る
 - 「教えてあげる」のではなく「学んでもらう」ことを通して、考える力を養い、自律、自立した人間を育てます。
- コミュニケーションスキル
 - 社会人に欠かせない要素の一つにコミュニケーションスキルがあります。
当社の新人研修では、チーム内でのコミュニケーション、プレゼンテーションスキルなど、幅広いコミュニケーションスキルを身につけていただくことができます。



人の育て方

- 教え込むのでは育たない

- 教育というと「こうすればできるんだよ」と、講師が詳しく教えてくれる、というシーンを思い浮かべる方も多いと思います。しかし、このやり方では「その問題の答え」しか理解できません。必要なのは「問題を解決する力」であるはずです。

- 育てるには学ぶ力を

- 人を育てるには「学ぶ力を与えること」です。目的を与え、モチベーションを高めることにより、自発的な学習をうながし、その学習効率は何のどんな方法よりも高くなります。

- 目的を持った人材育成を

- 当社では、よくあるメンタルコーチングとは違い、はっきりした目的を持って人を育てる「実践的なスキルコーチング」を軸にしていることを最大の特徴としています。

コーチングを行う側が学ばせたいスキルを、効率良く身につけさせるための技術として、コーチングを利用しています。



学ぶ楽しさ



- 苦しいけど楽しい

- 当社での講習を受講された方の中から必ず出てくる感想です。
つらいだけの講習では多くの時間が「早く終わらないかな」と考えることに費やされます。
しかし、それに「楽しい」が加わった時には、必死になって学び成長しているという実感がそこにあるのです。

- 成長を実感することは楽しい

- 自らの成長を実感できることほど楽しいことはありません。
「大変だけど、何を学べるのか楽しみに毎日出席していた」「大学での4年間よりも多くの事を学んだ気がする」というのも、他社での講習ではあまり聞かれない声でしょう。

- 自ら学ぶことは楽しい

- 当社ではワークショップなどの参加型の学習形態を積極的に採用し、自ら学びに行くことにより得られる「気づき」を大事にしています。
日々の感想などでも「・・・に気付いた」「・・・に気付かされた」という表現が毎日のように出てきます。
それらの解決方法を、講師からのアドバイスを元に考える中で、自然に「問題を解決する力」がつきます。



チームを活かす コミュニケーション



- コミュニケーションが基礎
 - チームで仕事をする場合には、コミュニケーションスキルが不可欠です。
当社での講習では、コミュニケーションスキルを高めることも重要な要素となっています。
- コミュニケーションの基礎
 - ただ「話す」のではなく、「伝えなければならない」こと、「自分の意見を言う」から「聴いて考えて話す」に、意識を変えていきます。
 - チームの中の役割を考えることを通して、チームの一員であることの自覚を持たせ、チームを活かすことができるコミュニケーションスキルを身につけていきます。
- 失敗から学ぶ
 - 数多くのチームによる活動を行って、失敗を重ねていく中で、コミュニケーションの重要性と威力に気付いていただきます。考える中で、個人個人の性格の問題点にも気づき、意識が変化していくと共に、問題を克服する度に自信がついていきます。
 - 講習後には「がんばり続ければ何とかできるという自信がついた」という感想を多くいただけます。

考えるきっかけ

ここが重要！

- ワークショップによる効率的な学び
 - 当社の講習の大きな特長の一つが、ワークショップの有効な利用です。
受講者の意識を高め、学びをうながす有効なツールとしてワークショップを利用していきます。
- ワークショップの目的
 - ワークショップは単なる話し合いと発表の場ではありません。使い方によってさまざまな目的に利用できる、優れた参加型の学習ツールです。
 - 研修中には、受講者のモチベーションを高めるため、チームの一員である意識を高めるため、失敗を克服するため、など、さまざまな目的のために利用します。
- 効果的な課題を
 - 学んでもらいたい内容に対して、受講生のレベルやバックグラウンド、個々の性格などを考えた上で、課題の設定、作業時間の設定をするなど、詳細な検討を行った上で、最高の効果を狙って実施します。



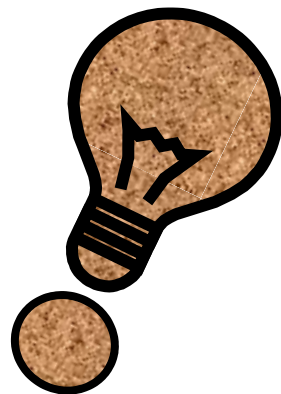
答えは教えない



- 答えを待つ姿勢をなくす
 - ICT技術講習であっても、あらかじめ回答を用意し、演習問題が終わったらそれを配付して答え合わせをしておしまい、という方法はとりません。
 - 「待っていれば答えをもらえる」という意識では、いつまでたっても学びに「行く」姿勢にならないからです。
 - 講師として技術的な質問に答えられる体制を整えた上で、考えて質問してくるのを待ち、答えに気付くためのヒントを吟味して与え、自ら問題を乗り越えてもらう事に、細心の注意を払います。
- 目的は現場で働けること
 - 研修期間にその問題の解答を覚えても、それが現場で役に立つわけではありません。現場で必要なのは、自ら調べ、考え、問題を解決していく力であると、当社では考えています。
 - そのために回答を教えるのではなく、徹底的に考えることを重視した研修としています。



気づきの力



- 気づきによる学び

- 「気づきによる学び」というと、なんとなく「怪しげ」に感じる方もおられるかもしれません。
ですが、実際には「あ！なるほど！！」という感覚は、学びには不可欠です。さらに、それを自らの力で「見つけた」時には、学びのためのモチベーションがいやでも高くなります。
そのモチベーションによりさらなる「気づき」をうながし、学習を前に前に進めて行くことができるのです。
- 講習中にはワークショップなどを通して、多くの「気づき体験」をしていただくことになります。「気づき」の持つ力を体験していただき、次の気づきを得るためのモチベーションにつなげます。

- 気付くチャンスを作る

- コーチングの大切な手法の一つが「気付くチャンスを作り続けること」です。
それが、学び続けることができる環境を作ることであり、課題の設定、コミュニケーションにより実現していきます。
講習では、アドバイスの仕方、課題の設定の仕方、コミュニケーションによりモチベーションを上げる方法など、さまざまな方法により「楽しく学べる環境」を作っていきます。



受講者の感想（その1）

私は長谷川先生の研修でC言語の知識を得たことは勿論のこと、まず一番にワークショップを通じてグループ単位で仕事をおこなう点で非常に多くのことを学べたと感じています。

この研修が始まった頃は、ワークショップ中に話をどう進めてよいかわからず、またその解決策も見えず辛い時期が続きました。そして、研修があまりに大変で濃い時間だったため、ワークショップが夢に出てきたこともありました。そんな日々が続いていく中で、どのように話し合いをすれば、効率良く結論(成果物)を導くことが出来るかを常に考えることを意識しました。そして、数々のワークショップでの失敗や反省、先生からたくさんのアドバイスを頂き少しずつ班内での自分の役割が見えてきました。私の研修前からの課題であった積極的に意見を出すということを意識しながらも、場の雰囲気を考え行動できたと感じています。

想像とは違った2ヶ月間の研修を通して、様々なことを学び、得ることができました。常に「考える」ということを意識しろと言われていたため、そのことを念頭に研修をうけてきました。

個人的には、積極性があがりプレゼン役を引き受けるようになったと思います。班員にいわれたところでは、「プレゼンテーションがうまくなった」、「人の話を聞いて、意見をまとめるのがさらに上手くなった」、「プログラムの構成を作れるようになった」ということなどがあげられました。自分では気づかないところもあったので、素直にうれしかったです。

この2ヶ月の研修を通して、最も自分が成長できたと思える部分は、自分で考える姿勢が身についたということである。長谷川先生の研修は、先生から与えられる情報が極めて少ない。そうした状況に日々置かれることで、どうすれば課題を解決できるのかということを経験する姿勢が自然と身に付いていったのではないかと。そういう姿勢というのは仕事をするにあたって当たり前のことなのかもしれないが、その当たり前のことが私にはできていなかった。また、たくさんのワークショップを通して、集団でのコミュニケーションへの苦手意識が払拭された。

私が最初にイメージしていた研修とはまったく違った内容だったので、最初は戸惑いました。慣れないワークショップの繰り返しで、どうしたら班として良い方向に進んでいけるか、悩む日々でした。そんな中でも、班の仲間と真剣に一つの課題を乗り越えていくにつれて、仲間の成長が見えたり、自分への評価を頂いたり、同期みんなで助け合ったり、成長していったのではないかと今思います。今日改めて、最初の班に戻ったときに、班の方々には、以前と違って「人の話をよく聞くようになった」という評価を頂きました。自分なかも結構問題視していたことだった

ので、このような評価を頂けたことはうれしいかぎりです。まだ研修は残っていますが、一人で100歩進むのではなく、みんなで一步一步ずつ、最終日に向かっていきたいです。そして、そんな中でも正確に技術を学び、その技術を使いこなせられるように心がけていきたいです。

長谷川先生との研修は毎日頭が痛くなるくらい考えることが求められました。C言語などの与えられた課題をどうプログラムするか考えることは勿論のこと、どうしたら班で話し合いができるのだろう。どうしたら皆がワークショップに参加できるのだろう。そして、どうしたら皆が自信を持って自分の意見を述べられるのだろうと考え続けました。その結果として、自分ではワークショップにどんどん参加していく積極性が身に付いたと思いますし、班の皆からは技術力が身に付いた、下を向いて一人で考え込むことが少なくなったという意見をもらいました。

これからもできる限り周りの人を巻き込んで、積極的に活き活きとした話し合いができるように精進していきたいです。そして、しっかりと技術屋になれるように努力し続けていきます。

C言語でプログラムを書くことに関して、聞くのではなく自分から学びに行けと教えていただいたのですが、それはプログラムの技術向上だけに言えるのではなくて、社会人たる立ち振る舞いであるということも分かりました。その自分から学びに行く姿勢を積極的に行うことでこれまでの期間で自分でも驚くほど技術的な成長を実現できたのではないかと考えております。何事にも貪欲に、ということを入社時に自分の当面の目標としておりましたので、その志を忘れずにいて良かったと思います。

仕事をしていく上で「時間」の概念は常に意識しておく必要があることもグループワークにおいて体験することが出来ました。時間内にきちんと作業をこなせなかった場合は、後の発表や別作業などに多大に影響してくることを1度ならず指摘されましたので、時間管理をしっかりと行うことが課題となってきます。

この2ヶ月間の研修を通して得た反省点と改善点は様々に渡りますが、知識不足を補うための学びに行く姿勢、そしてチームでの仕事ということを常に意識し、この研修で得たものは全て実行できるように取り組んで行きたいと考えております。

本当に多くの、当時の自分に足りていない、しかし組み込みの業界で生きていくには必要な知識や能力を教えていただいたり、気づかせていただいたとても濃い時間だったと思います。この様に濃い時間を提供して下さった長谷川先生や多くの方々、そして会社に心から感謝しております。

受講者の感想（その2）

技術的な面で得たものは非常に大きかったように思います。しかし、今回の研修で私が一番に学んだことは、人とのコミュニケーションに関することでした。

この2ヶ月で、何かについて話し合い、それをまとめ、成果を出すということの難しさを痛感しました。

段取りをする、時間配分に気をつける、役割分担をする、相手の意見を理解する、自分の意見を相手に伝える、相手に伝えるためにわかりやすい表現を心がける・・・

頭では、わかっていても実際にやってみるとできないことばかりでした。

人とのコミュニケーションについて日々考えていたように思います。

しかし、人とのコミュニケーションというものについて考えることができた、ということこそがこの研修で得た一番の収穫だと思っています。

この研修を通して自分の良いところ、悪いところについても少し知ることができました。

今後は、今回の研修で得たことを生かして、良いところは伸ばし、悪いところは改善できるように、努力を続けていきたいと思っています。

グループで作業を行う際には多くの点で苦労する場面がありました。特にグループ内の個人間での情報共有の仕方や、効率的な作業分担の割り当て方、発散した意見のまとめ方、時間内に作業を終えるための効率的な時間配分等の点では多くの失敗と試行錯誤を重ねました。それらの経験から得ることができたのは、話し合いを円滑に行うためのさまざまな技術や方法でした。まず話し合いの前にはきちんと段取りを考えることが必要であるし、話し合いの最中には、議論を促進するためのファシリテーターなど、グループ内での役割を各個人が理解し、自発的に動くことが求められたり、情報の共有のためには分担作業の経過報告はきちんと行う必要がある、などということをも身をもって理解することができました。

また初期のc班ではよく意見の対立が起こり、その結果、「話し合い」がただの「言い合い」になってしまい、決められた時間内に結論を導くことができないという問題を抱えていました。この問題はどうしたら解決することができるのかを、c班で何度も話し合いをしましたが、その結果得ることができたのは、相手のことを思いやって発言する、「うなづき」などの行為によって話者が気持ちよく話せるような環境をつくる、わからない点を相手に聞くときは、まず何がわからないのかをはっきりさせる、相手の意見は聞くだけでなく理解する、といったコミュニケーションをとるべき相手との接し方の技術でした。こうした技術を活かして、話者と聞き手が円滑にやりとりできると、グループ全体に（時間あるいは精神的な）余裕ができ、結果的に成果物の質を高めることができるのだと思います。

グループワークでチームとして仕事をする際に、自分の意見を相手に伝えることの難しさ、相手の意見を理解するこ

との難しさがありました。研修を受ける前までの私は、指示語も多く、周りとはただ仲良くするのが、コミュニケーションだと思っており、コミュニケーションの意味をはきちがえていました。しかし、グループワーク、プレゼンテーションを通して、主語と理由をしっかりとつけ相手に何を伝えたい、何を伝えなければいけないかというのがわかりました。

今回の研修を通して、チームプレイの大切さを学びました。長谷川先生の研修ではc言語を書けるようになるという目的はあるものの、研修時間のほとんどをワークショップに費やしたという感想を持っています。先生の出した問題に対してグループで話し合い、結論を出し、発表するという作業を繰り返し、どうすれば全員が納得のいく結論に至る事ができるのかを試行錯誤する日々が続きました。その中で、私はファシリテーション技術というものに興味をもち、先生に質問したり本を読む事により多少の知識を得る事ができました。学生時代の私であれば、物事を決める際にじゃんけんか多数決しかありえないと思っていましたが、ファシリテーション技術により全員参加の話し合いをすることが可能です。学生時代に何度かリーダーという役割になる事がありましたが、その時にこの技術に関しての知識があればもう少し良いリーダーシップを取れたかもしれないと感じました。

この研修を通じて学べたことは、グループワークに対する実感を得ることができたことと、何より「考える」ことを突き詰めたときに得られるものが確かだということを感じられたことです。

これまではグループワークという以前、集団で作業を行うこと自体に価値を感じられなかった面があったのですが、この研修で行ったグループワークは、グループのメンバー五人がそれぞれ真剣に取り組み、真剣に考えていて、そうやって出た結果というものは到底自分ひとりでは出せない内容が、グループの結論として得られていた、という意味で、個人作業と比べて集団作業は尊い、と感じることが度々ありました。

長谷川先生の研修を受けて一番感じたことは、「考えることの大切さ」です。研修全体を通して、ワークショップの時もコーディングの時も、考え試行錯誤することの繰り返しであったように感じました。また、考えて行動しその中から答えを出すことで、身に付けることができることを学びました。

ワークショップでは、自分の考えがどうしたらチームのメンバーにわかりやすく伝わるのか、自分はチームの中で何をしたらよいのか、チームで目的に対してどういうアプローチを行うのかを考えて参加していました。この2ヶ月の間に、話し合いに没頭しすぎることなくチーム全体を見て、話し合いの確認をしたり、方針転換の提案をしたりできるようになったと感じています。

講習の進め方



- お問い合わせ

- まずはお問い合わせください。
お仕着せのカリキュラムでは有効な学習が期待できませんし、配属スケジュールに合わせたカリキュラムが必要になります。
2週間程度の短期講習からの3ヶ月ほどの長期講習まで、基本カリキュラムを元に最適なカリキュラムを作成し、ご提案いたします。

- 準備

- 実施会場の決定、必要な資料の準備など、打ち合わせた内容に基づき必要な準備を行い、講習に備えます。

- 実施

- 現場で観察に基づきカリキュラムを調整しつつ、与えられた時間で最大限の効果を発揮する講習を行います。日々の実施内容については、レポートにてご報告いたします。

- 代表的な実施例

- 2ヶ月の集中講習。

- 費用

- 講師費用として参加者15人まで15万円/日
それ以上は一人増えるごとに5千円追加。
例：20名様で参加の場合 15万円 + (5千円×5) = 17.5万円/日
交通・宿泊費、会場、教材費用については別途ご相談させていただきます。

講師一人での対応は40人までとさせていただきます。

- 問い合わせ先



有限会社テクノセンス

〒341-0024

埼玉県三郷市三郷1-5-3-501

担当者 長谷川貴則

hasegawa@technosense.co.jp

090-3068-7398

その他の研修



- コーチングスキル研修
 - 管理職の方の管理スキルとして
 - 高いモチベーションのチーム
 - 自律的な活動を引き出す
- 講師講習
 - 社内技術者に講師スキル
 - 講師スキルを高める
 - 教える技術を高める
- コミュニケーション研修
 - 相手の気持ちを考える
 - プレゼンテーション
 - 体験して学ぶ
- ヒアリング研修
 - 聴く姿勢
 - 話し手の感情
 - 質問のスキル
- IT技術者転換研修
 - アプリ系から組込み系への転換など
- その他
 - お客様のご要望をヒアリングし、有効なカリキュラムをご提案、実施させていただきます。学ばせる「スキルコーチング」を適用し、さまざまな「学びの場」に対応することが出来ます。
 - 人材育成でお困りの場合には、ぜひ、ご相談ください。

コーチングの適用範囲

コーチングのテクニックだけではなく、本質を理解することにより、さまざまな応用ができるようになります。

学校教育、スポーツの技術指導、技術講習、ヒューマンスキル講習など、幅広く「育てる」目的に活用できます。

育てる技術は会社を変える、日本を変える力を持っていると、当社では考えています。



有限会社テクノセンス

〒341-0024

埼玉県三郷市三郷1-5-3-501

<http://www.technosense.co.jp/>

担当者 長谷川貴則

hasegawa@technosense.co.jp

090-3068-7398